

連掛虎ノ巻



遊漁船あこう

連掛虎ノ巻

目次

前書き	5	4、リール	1 8
		(1) リールの選定	1 8
1 章 釣り場	6	(2) 下巻き	1 8
1、岩礁	6	(3) メカニカルブレーキ	1 9
2、漁礁	7	(4) ドラッグ	1 9
(1) 石積み漁礁	7	5、縄れ防止	1 9
(2) コンクリートブロック漁礁	7	(1) リーダー	1 9
(3) 鉄骨漁礁	7	(2) ゴム管の取り付け	1 9
		6、サビキ仕掛け	2 1
2 章 釣り人から見た生態	8	7、その他の道具	2 1
1、食性	8	(1) 服装	2 1
2、群れの状態と習性	8	(2) 手袋	2 1
(1) 待ち状態	9	(3) 道具箱	2 1
(2) 探し状態	9	(4) クーラーBOX	2 1
(3) 競り状態	1 0		
(4) 休み状態	1 1	4 章 連掛け釣法	2 2
3、船釣りでの好条件	1 2	1、8連サビキの取り扱い	2 2
(1) 天候	1 2	2、根掛りの対処方法	2 3
(2) 餌	1 2	(1) 竿を使った切り方	2 4
(3) 潮回り	1 3	(2) 道糸を持って切る	2 4
		3、連掛け釣法の釣り方	2 4
3 章 道具	1 3	(1) 底取り	2 4
1、竿	1 3	(2) 上げ誘い	2 5
(1) 調子	1 3	(3) 極意其の1	2 5
(2) 長さ	1 3	(4) 下げ誘い	2 6
(3) ガイド竿、中通し竿	1 3	(5) 極意其の2	2 7
2、道糸	1 6	(6) 巻き合わせ	2 8
(1) 竿0号(軟調)	1 6	(7) 落とし合わせ	2 8
(2) 竿1号(中調)	1 6	(8) 極意其の3	2 9
(3) 竿2号(硬調)	1 6	(9) やり取り	3 1
(4) 道糸と錘の関係	1 6	(10) 取り込み	3 2
(5) 太い道糸	1 7		
(6) 道糸の種類	1 7	後書き	3 3
3、錘	1 7		
(1) 錘負荷の適正範囲	1 7		
(2) 錘の形	1 7		

連掛虎ノ巻

発想の転換が革新をもたらす

8 連サビキはルアーだ連掛け釣法！

群れには群れで、智慧には叵で挑め！



前書き

メバルは瀬戸内で人気の釣魚で磯や船、又 餌やルアーなど様々な釣り場、釣法が有り初心者からベテランまで多くの人に愛されている釣りです。その中で船釣りでのメバルサビキは近年広まった釣法で、昼間、餌を使わず、撒餌も使わず、手軽なサビキ仕掛で釣れるので初心者でも楽しむ事が出来ます。メバルサビキ最大の魅力は何と言っても連掛けに尽きます。25～30cmのメバルを、6連、7連、8連と掛けた時の強烈な引き、そして芋蔓で浮いて来る様子は圧巻で、外の釣りでは味わう事が出来ません。されど自然相手、生き物相手の釣り。思い通り釣れる時も有れば、釣れ無い時も有り、知る程に難しさを感じて来ます。この連掛けを偶然では無く狙って釣るには天候や潮、釣り人の経験や技術、など色々な条件が揃う必要が有ります。連掛虎ノ巻でその釣り方を解説するにあたり、巻頭で連掛け釣法の極意を先を書いて置きます。 其の1「岩礁をイメージし宙を釣る。」 其の2「8連ルアーを群れと化す。」 其の3「先頭を掛け叵にして群れを引き付ける。」これを頭に入れ1章より順に読んで頂ければ、連掛け釣法の極意が解るはずです。天候や潮に恵まれた千載一遇の好機は通ってれば必ず訪れます。貴方も是非、連掛け釣法の醍醐味をその腕で味わって下さい。

連掛虎ノ巻

1 章 釣り場

船釣りで狙うメバル釣り場は岩礁や漁礁など、メバルが身を隠せる場所がポイントです。岩礁や漁礁と聞いても海底の状況が正確に理解出来ている人は少ないのでは無いでしょうか。まして不慣れな初心者では仕掛けを下す度に根掛りし音を上げる事も有ります。しかしコツを掴めば怖がる事は有りません。その為に先ずはメバルの住处について知しましょう。そして連掛け釣法の極意 其の1「岩礁をイメージし宙を釣る。」を覚えて下さい。

1、岩礁

大小の島々が入り組んでいる芸予諸島は複雑で早い潮流により、海底の土砂が削られ岩礁が至る所に広がっています。潮通しの良い岩礁はイカナゴやアメエビなどの

図1 岩礁の様子

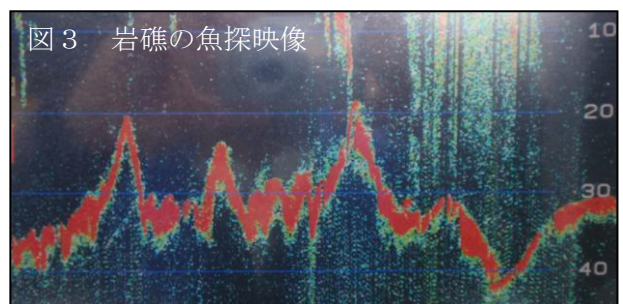


餌も待っていれば流れて来ます。メバルにとって住处と餌の両方が得られるのが岩礁です。しかしメバルは岩礁さえ有れば何所にでも居る訳では無く、メバルが身を隠せる穴や割れ目が沢山ある岩礁中最も荒い場所に好んで群れています。図1に岩礁の様子を示しました。写真は干潮時 水面上に出た部分ですが、海中にも同じ様に続いています。メバルのポイントは水深10~50mで荒い岩礁では30m以上の高低差が有ります。岩礁中の大きな岩は高さ7,8m以上有り、2階建ての家より高くその割れ目も同じ深さが有ります。この様な岩が幾重にも積み重なり山の様な岩礁に成っています。仕掛けが掛り易く、道糸が掛る事さえ有ります。この様な岩礁は3m程度の竿を動かしただけで交わせる大きさでは有りません。リールを巻き上げながら交わして行きます。次に図2の様なゴロ石場も小さな穴が多く有り好ポイントに成ります。ゴロ石ポイントでは錘が掛易く成ります。底取り

図2 ゴロ石の様子



図3 岩礁の魚探映像



を素早くして下さい。図3は岩礁の魚探映像です。水深目盛で解る通り10m以上の起伏が連続した非常に荒い岩礁が映し出されています。如何ですか、岩礁の状況が理解出来たでしょうか。この様な場所で底を探る様な釣り方をすると根掛りの連続です。しかし宙を釣り底を捨ててしまえば何も怖がる事は有りません。底取りさえ注意していれば、スイスイと釣る事が出来ます。

連掛虎ノ巻

2、漁礁

漁礁（人工漁礁）は人工物を海底に沈めたもので石積み、バス、列車、コンクリートブロック、鉄骨、廃船など形や材質には様々な物が有ります。いずれもメバルが好んで住処としています。この内、瀬戸内に良く設置されている石積み、コンクリートブロック、鉄骨について説明します。

（1）石積み漁礁

30~80cm 程度の割り石を海底に 2~5m 盛り上げて造られています。山形に積まれた物は潮流の表と裏が出来、小さな穴が多くメバルが好みます。図4は漁礁に使われる割り石置き場の写真ですが、岸壁に高さ 4m 程度に積み上げられています。海底にも同じ様な形で置かれています。



図4 石積み漁礁の様子

（2）コンクリートブロック漁礁

立方体や三角錐の形状で 1~3m の大きさのブロックを並べたり、2段、3段と積み重ねて造られたもので 2~8m の高さが有ります。隙間が多くメバルが好んで住む漁礁ですが仕掛けや道糸、錘が掛け易く、岩礁以上に根掛します。

（3）鉄骨漁礁

公園や小学校などに有るジャングルジムを大きくした様な構造で、高さ 5~10m、幅、奥行き 5~12m です。漁礁の中にも簡単に仕掛けが落ちてしまうので、コンクリートブロック以上に激しく根掛する最難関のポイントです。図5は漁礁の魚探映像です。画面下部の赤い帯が海底です。海底の上に 8m 程の高さでブロック状に赤く映っているのが漁礁です。海底には音波が通らないので赤い帯の幅は 1m 程度ですが、鉄骨漁礁は隙間だらけなので内部の鉄骨からも音波が反射し、全体が赤く映し出されています。

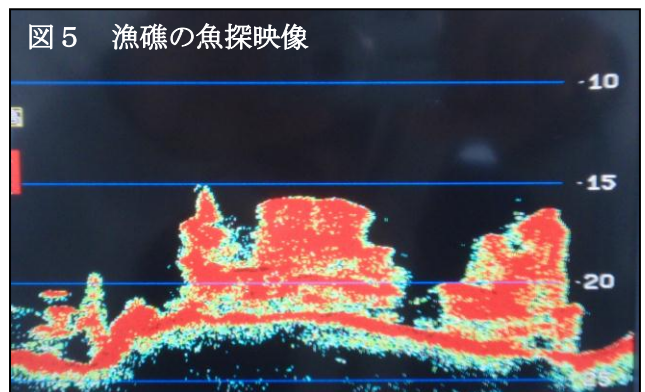


図5 漁礁の魚探映像

著作物の明細】

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1、題名 | 連掛虎ノ巻 |
| 2、著作者の氏名 | 遠藤幸助 |
| 3、最初の公表年月日 | 平成22年11月12日 |
| 4、著作物の種類 | 論文 |
| 5、著作物の内容 | メバル釣り場、生態、食性などを釣り人の視点で観察し解説したもの。
それを基にメバル釣りについて道具、釣り方などについて解説した著作物。 |
| 6、この著作物を無断で掲載、転用、複製する事を禁ずる。 | |

連掛虎ノ巻

続きは現在、編集中、近日公開！